

ニホンジカ ガイドラインの概要・ポイント



一般財団法人 自然環境研究センター 山田志穂

本講義の構成

1. ニホンジカの基本的な生態と人間とのかかわり

- ①ニホンジカの生態
- ②人間とのかかわり

2. ガイドラインの概要とポイント

- ①ニホンジカ管理の流れ
- ②地域の状況に応じた管理
- ③目標の設定と評価
- ④順応的管理
- ⑤実施体制

本講義の構成

1. ニホンジカの基本的な生態と人間とのかかわり

- ①ニホンジカの生態
- ②人間とのかかわり

2. ガイドラインの概要とポイント

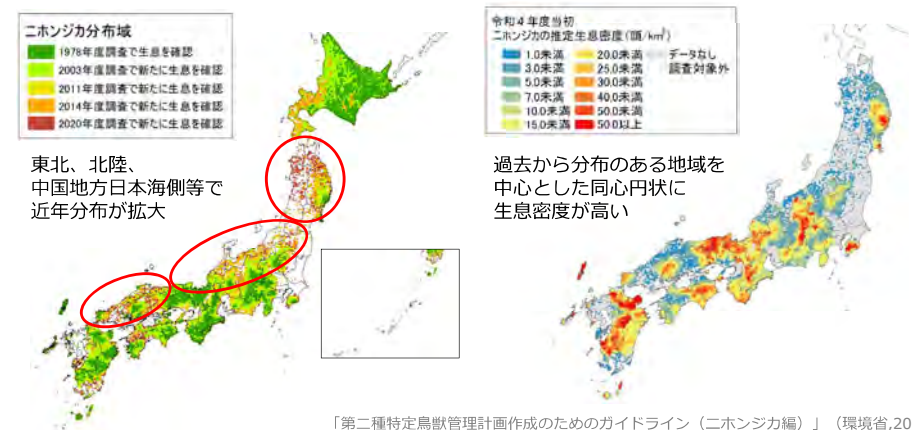
- ①ニホンジカ管理の流れ
- ②地域の状況に応じた管理
- ③目標の設定と評価
- ④順応的管理
- ⑤実施体制

①ニホンジカの生態

ニホンジカ（英名：Sika deer 学名：*Cervus nippon*）
鯨偶蹄目シカ科シカ属

● 分布

- ・ 北海道、本州、四国、九州、各地域島しょ部に地域亜種が分布
- ・ 近年、**積雪地や高標高域に分布拡大**



①ニホンジカの生態

南アルプス 北岳（標高2900m付近）で撮影されたニホンジカ



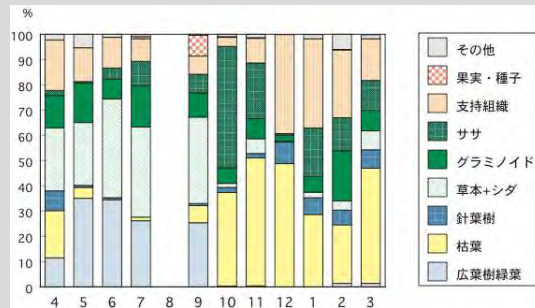
撮影：（一財）自然環境研究センター

①ニホンジカの生態

● 生息環境・食性

- 主な生息地は森林(林縁) + 季節移動→季節や場所により生息密度が偏る
- 草食・可塑的：嗜好性の高い植物からあらゆる植物を採食(Takatsuki 2009)
- 植物がほぼなくなるまで採食し続け、落葉でも生存可能(梶 2013)
- 一日の採食量は乾燥重量で約 2 kg弱 (田村ほか 2012)
- 幼獣>メス>オスの順で質の高い餌を食べる傾向 (Jiang 2009)

可塑的に食性が変化



「平成20年度シカ生息実態等調査報告書（東京都,2009）」

不嗜好性植物



「神奈川県シカ不嗜好性植物図鑑」
（神奈川県自然環境保全センター,2016）

①ニホンジカの生態

● 形態

- 季節により体色が異なる。オスだけに角があり、毎年春先に生え変わる
- 体サイズ：オス>メス 雌雄差、地域差、環境に応じた可塑性あり
- 餌環境が悪化しても、初回繁殖年齢の上昇・体サイズを小さくして生存

(Kaji et al. 1988; Minami et al. 2009)



「神奈川県ニホンジカ(神奈川県HP)」
「The Wild Mammals of Japan (Ohdachi et al. 2018)」

雌雄差

ホンシュウジカ

雌雄	全長	体重
オス	145-180cm	45-75kg
メス	100-150cm	35-55kg

エゾシカ

全長140-190cm
体重 ♂90-140kg
♀70-100kg

地域差

ヤクシカ

全長100-150cm
体重 ♂19-25kg
♀24-37kg

①ニホンジカの生態

● 繁殖・社会性

「日本の哺乳類 改訂版」(阿部,2005)



②人間とのかかわり

● シカと人間社会の歴史

使う	江戸	各地で多数生息の記録あり（鹿狩り）
	明治	個体数が減少、地域個体群の絶滅
守る	昭和	1948 メスジカ禁猟 1978 オスジカ捕獲数制限
	平成	個体数が回復、分布拡大、農林業・自然植生への被害 2013 「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」（環境省、農水省）
減らす	令和	シカの半減目標は未達成→2028年まで継続

半減目標：2011年→2023年の間に
シカとイノシシの推定個体数を半減させる

- 🔴 目標設定により**捕獲が推進**
- 🔵 捕獲の成否に**地域差**
捕獲のみでは**地域の課題**は解決不可？
被害の深刻化や改善をどう**評価**？

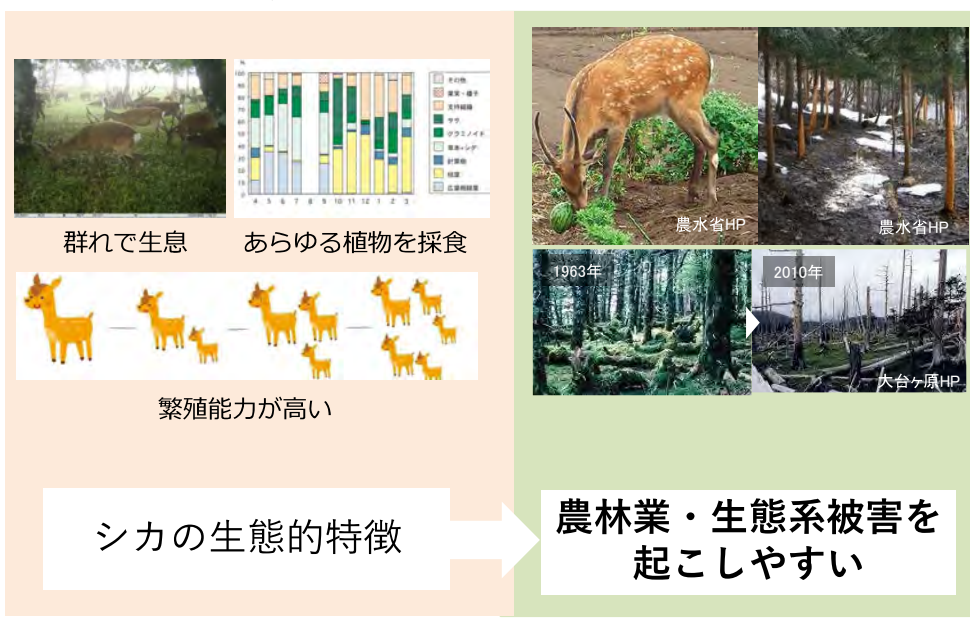
②人間とのかかわり

● 近年の人間社会との軋轢



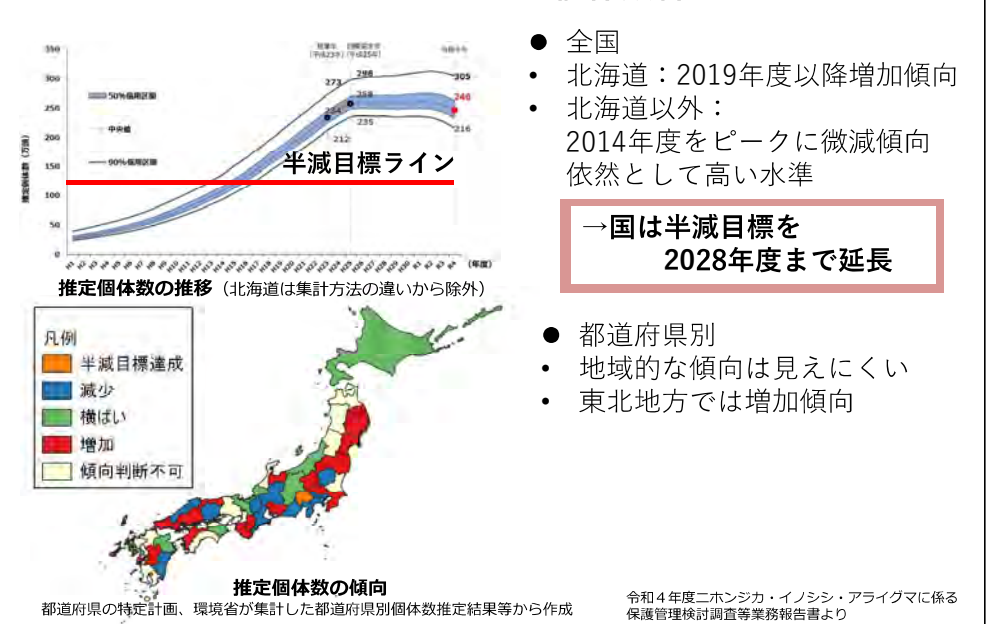
②人間とのかかわり

● 近年の人間社会との軋轢



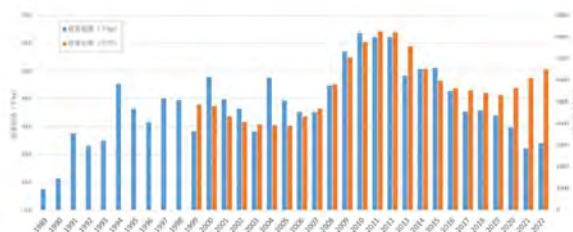
②人間とのかかわり

● 近年の全国的な保護管理の状況：個体数管理



②人間とのかかわり

● 近年の全国的な保護管理の状況：農作物被害



農作物被害金額と面積

農林水産省 HP データより作成 (<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/index.html>)



農作物被害金額の状況

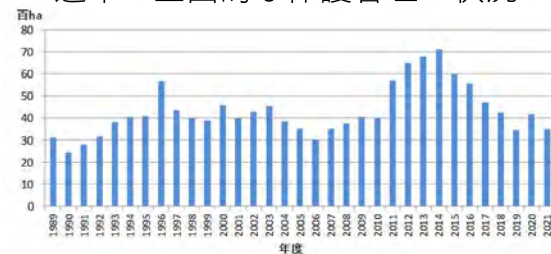
令和4年度ニホンジカ・イノシシ・アライグマに係る保護管理検討調査等業務報告書より

- 全国
- 被害面積 ■：
- 2010年以降減少傾向
- 被害金額 ■：
- 2019年以降やや増加傾向

- 都道府県別
- 西日本や北海道で減少傾向
- (1970年代から生息が確認されていた地域)
- 東北、日本海側で増加傾向。

②人間とのかかわり

● 近年の全国的な保護管理の状況：林業被害



森林被害面積

林野庁HPデータより作成 (<https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/tyouju.html>)



森林被害面積の状況

令和4年度ニホンジカ・イノシシ・アライグマに係る保護管理検討調査等業務報告書より

- 全国
- 2014年度をピークに近年は減少傾向。

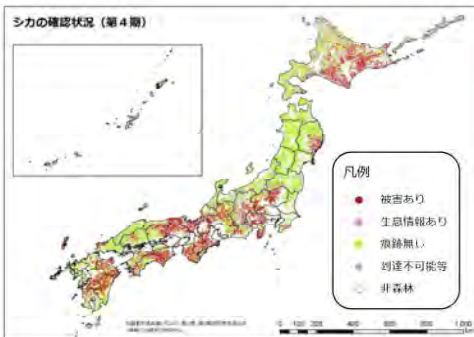
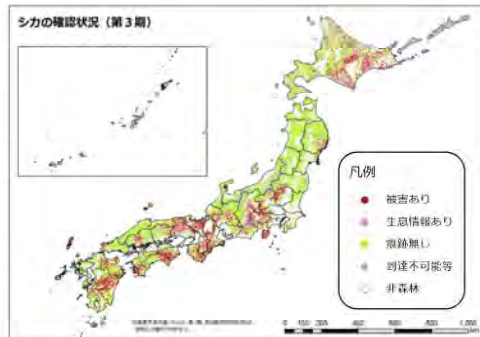
- 都道府県別
- 西日本～関東で減少傾向。
- (1970年代から生息が確認されていた地域)
- 東北等で増加傾向。
- データが少なく傾向判断ができない地域が多い。

②人間とのかかわり

● 近年の全国的な保護管理の状況：森林生態系被害

第3期調査（2009～2013年度）→第4期調査（2014～2018年度）
シカの被害が確認された地点数は増加

	合 計 (シカの情報が確認された調査点数)	シカの被害が確認された調査点数	シカの生息のみが確認された調査点数 (被害なし)
第3期	3,979	2,890	1,089
第4期	4,942	4,044	898



野生鳥獣による森林被害の状況
森林生態系多様性基礎調査 林野庁

参考文献

- 阿部 永.2005.日本の哺乳類 改訂版.東海大学出版会
- Jiang Z, Hamasaki S, Takatsuki S, Kishimoto M, Kitahara M. Seasonal and sexual variation in the diet and gastrointestinal features of the sika deer in western Japan: implications for the feeding strategy. Zool J Linn Soc. 2009 Oct;26(10):691-7. doi: 10.2108/zsj.26.691. PMID: 19832681.
- Kaji, K., Koizumi, T. and Ohtaishi, N. 1988. Effects of resource limitation on the physical and reproductive condition of sika deer on Nakanoshima Island, Hokkaido. Acta Theriologica 33: 187-208
- 梶 光一.2013.長期的餌資源制限がニホンジカの生活史特性に及ぼすフィードバック効果の解明.科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書
- 神奈川県ホームページ.神奈川県のニホンジカ.
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/03shinrin/sika/01_about.html
- 神奈川県自然環境保全センター. 2016.神奈川県シカ不嗜好性植物図鑑. https://www.agri-kanagawa.jp/tebiki/fushiko_2016.pdf
- 環境省.2021. 第二種特定鳥獣管理計画作成のためのガイドライン（ニホンジカ編）.
<https://www.env.go.jp/press/109372.html>
- 高槻成紀. 1992. 五葉山のシカ調査報告書 1988-1991 年度. 岩手県環境保健部自然保護課, 42 pp
- 田村 哲生,寺崎 敏明,及川 真里亜,梶 光一,奈良 雅代,新井 一司,中村 健一.2012.季節変化がニホンジカの飼料摂取量に及ぼす影響.東京都農林総合研究センター研究報告 7:69-77(2012-03)
- 農林水産省. 2024.鳥獣被害の現状と対策.
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/attach/pdf/index-48.pdf>
- Minami, M., Ohnishi, N., Higuchi, N., Okada, A. and Takatsuki, S. 2009. Life-time reproductive success of female sika deer on Kinkazan Island, Northern Japan. In (D. R. McCullough, S. Takatsuki and K. Kaji, eds.) Sika Deer, pp. 319-326. Springer Japan, Tokyo.
- Ohdachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwasa, M. A., Fukui, D., Saitoh, T. 2018 .The Wild Mammals of Japan(2nd edition).日本哺乳類学会.